

○議長（森 弘秋君） 2番 良峯喜久男君。

○2番（良峯喜久男君） 2番良峯喜久男です。このたび、在住地区から選出の議員の引退により、後を受け継ぎ、12年ぶりの村議会議員選挙戦におきまして初当選をさせていただきました。舟橋村の将来像が、安心・安全な、「命かがやく 笑顔あふれる しあわせいっぱい ふなはし」を目指す中で、私のできることは惜しむことなく、誠心誠意取り組んでまいります。今後何かとご迷惑をおかけすると思いますが、何とぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、通告しています項目についてお尋ねいたします。

私が選挙公約で示しました高齢者に優しい、安心・安全な、住みやすい村づくりを住民の皆さんと一緒に目指す中で、平成31年3月定例議会の一般質問で故明和議員からも質問されていますが、本年度予算で計画されています新ハザードマップ作成の進捗状況について、私からも再度お尋ねします。そして、そのマップの完成はいつになるのかお聞かせ願います。

次に、同じく3月定例議会で竹島議員もご指摘のとおり、現ハザードマップは舟橋村の地図表記が小さくて見づらいものとなっております。この際に、村には舟橋村地域安全マップ、舟橋村地震防災マップ、そして立山町・舟橋村洪水ハザードマップがありますが、これらを1枚にまとめた舟橋村独自のマップはできないのでしょうか。村当局のお考えをお聞かせ願います。

次に、昨今全国的に異常気象による水害、また地震や火山による災害が多く発生している中、舟橋村でも昨年7月5日の午後から雨足が強くなり、午後6時4分に避難準備・高齢者等避難開始情報が村内5地区、舟橋、仏生寺、稲荷、竹内、国重に発令されました。それを受けて、自治会長、民生児童委員、関係機関職員及び村職員を対象にアンケート調査を行い、検証されたと聞いております。

それを踏まえて、昨年9月1日に舟橋、仏生寺、稲荷、竹内地区を対象に防災訓練が執り行われました。今さらながら、なぜ国重地区が対象外だったのでしょうか。

ことしも防災訓練が予定されていると思いますが、どのような規模で訓練を予定されているのかお尋ねいたします。

また、こども園、小学校、中学校の防災教育と避難訓練が実施されていると思いますが、子どもたちに自らの命は自らが守る意識を醸成してもらうためにも継続的に実施していただきたいと思います。

そこで、こども園、小学校、中学校の防災教育と避難訓練の実施状況についてお聞かせ願います。

最後に、村当局は各自治会の自主防災組織の実態をつかんでおられるのでしょうか。

私の住んでいる国重自治会は、自主防災組織の見直しをして、新しい防災会規則のもと、平成26年12月14日から新たに活動しております。

平成24年2月10日告示第3号として、舟橋村自主防災組織資機材整備事業交付金の交付を受け、炊き出し用の大釜を購入して、実際に炊き出しを行ったり、平成27年から舟橋村消防団、東部消防組合舟橋分遣所の力をかりて、自主防災訓練を毎年行っています。ことしも6月2日にAEDを使用しての心肺蘇生法、消火器の取り扱い等の確認の訓練をしたところです。

そこで、各自治会の防災訓練の実態、交付金の活用状況についてお尋ねいたします。

安心・安全な村づくりを今後も考えていく中で、防災に対しての村の取り組みについてお聞かせをいただき、昨年、避難準備・高齢者等避難開始情報が発令された後の村の検証等々を精査されまして、有事の際に生かしていただきたいと思っております。

何よりも住民一人一人が自らの命は自ら守る意識を強く持ち生活をするのが前提ではありますが、村当局も各自治会に防災組織の見直し、防災備品の整備、そして自治体ごとの防災訓練を推奨して、住民、地域、行政の体制の強化に努めていただくことをお願いいたします。

何分にも初めての一般質問です。何を言いたいかわからないところもあったかと思いますが、今後勉強させていただき、誠心誠意取り組んでいくことをお約束しまして、私からの質問とさせていただきます。

○議長（森 弘秋君） 総務課長 松本良樹君。

○総務課長（松本良樹君） 2番良峯議員の質問にお答えします。

まず、新たな洪水ハザードマップの進捗状況と完成時期についてお答えいたします。

作成に当たっては、関係する河川を同じくする立山町と共同で事業を進めております。今後、6月中をめどに作成業務を発注することとしまして、浸水想定区域面積の約81%を立山町で占めていることから、仕様書の作成、入札事務手続等は立山町にお願いすることで合意しております。新たなハザードマップがおおむね完成するころに印刷業務を発注し、完成次第必要な手続を経て公表したいと考えております。また、印刷したハザードマップは全戸配布することとしておりますが、その前に当村ホームページに掲

載することで、いち早く住民の皆様には周知できるよう努めてまいります。

次に、既存のハザードマップでは、舟橋村の表記が小さく見づらいとのご指摘ですが、今回の作成に当たっては、立山町・舟橋村の全域を表記したハザードマップに加え、舟橋村部分を拡大し、見やすくしたマップを本村独自で作成したいと考えております。

なお、今年度ハザードマップを改定するのは水防法改正に伴うものでありまして、議員が指摘されたとおり、舟橋村には地域安全マップ、地震防災マップをはじめ、防犯・防災に関するマップ等が複数ございますが、浸水想定区域を表記しました洪水ハザードマップとは内容が異なりますので、これらを網羅した1枚にまとめた総合的なマップの作成については、今後、皆様と協議・検討してまいりたいと考えております。

次に、昨年7月5日の避難情報の発令では、対象地区が舟橋、仏生寺、稲荷、国重、竹内であったのに対し、9月1日の防災訓練では国重地区が対象外であったことについてお答えします。

議員の指摘されたことにつきましては、昨年9月議会の総務教育常任委員会において、また11月の国重タウンミーティングにおいてご説明したところでありますが、再度ご説明をいたします。

まず、防災訓練の対象地区では、洪水ハザードマップからの避難所として地区公民館を使用できない舟橋、仏生寺、稲荷、竹内を対象とすることに決定し、その旨を5月下旬の自治会長会議において説明を行い、自治会長さんを中心に各地区において防災訓練に向けた準備を始めていただいたところであります。

一方、7月5日のことですが、舟橋村から避難準備・高齢者等避難開始情報を発令する直前の午後5時51分に富山市が水橋地域を対象に同情報を発令しました。国重地区は水橋地域と隣接しておりますので、舟橋村としましても早く避難を呼びかけるため、国重地区も対象としたのであります。

防災訓練に関しては、想定上から他の4地区とは異なり、地区公民館からの2次避難の必要がないことから国重地区は対象としなかったことをご理解いただきたいと思います。

次に、今後の防災訓練についてお答えします。

昨年はゲリラ豪雨等による洪水被害を想定した防災訓練を本村独自で実施したところですが、ご承知のとおり、本村では防災訓練を毎年実施しておりません。例

年防災週間の時期に県が主催する富山県総合防災訓練がおおむね5年に1回本村でも開催されており、未定ではございますが、来年度は本村が構成自治体である東部消防組合の管内で実施される見込みであります。

災害想定等は未定でございますが、本村における防災の基本目標としては、「自分の身は自分で守る」という自助意識の醸成、地域で助け合う共助の体制強化が急務であると考えております。

今年度は防災訓練の予定はございませんが、地区等からご要望があれば、タウンミーティング等で住民の皆様方と地区及び村の防災についてお話をする機会を設けてまいりたいと考えております。

次に、本村のこども園、小中学校における防災教育と避難訓練の実施状況についてお答えいたします。

まず、ふなはしこども園では、月に1回の避難訓練時に、地震の際、身を守る方法の伝達を行っております。また、年1回、分遣所から職員の派遣を受けて、通報訓練を含めた総合的な訓練を実施しております。

小中学校では、文科省の指導計画に沿って、事前指導、避難訓練、反省及び事後評価を実施しております。なお、昨年度の実績では、舟橋小学校が年間6回、舟橋中学校が年間2回でございます。また、平成29年度には、小学校6年生と中学校3年生による小中合同防災学習を実施したところであります。

最後に、自主防災組織の実態についてでございます。

舟橋村自主防災組織資機材整備事業交付金制度の実績を調べますと、平成24年度に東芦原地区、平成26年度に国重地区が交付金を活用して防災用品や炊き出し用大鍋を購入されておりますが、それ以降は実績がございません。

これまでも自治会長会議等で、他の地区においてもこの補助制度を活用し自主防災組織の強化に努めていただきたいとお願いしてまいりましたが、前述のとおり状況でありますので、今後とも粘り強くPRを続けるとともに、自主防災組織を強化するための効果的な方策を検討しまして、災害に強い、安全・安心なまちづくりを進めてまいりたいと存じますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます、答弁いたします。